いせえび太平洋中・南部系群（伊豆諸島周辺海域）

評価対象種：イセエビ（伊豆諸島海域）

令和６年４月

資源の水準と動向「中位・減少」

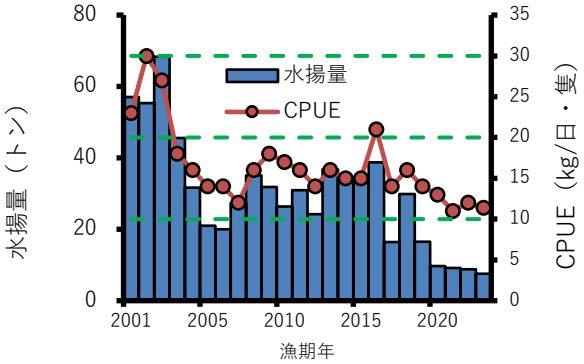

図１ 水揚量と CPUE の推移

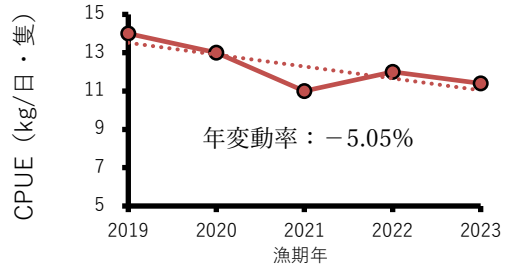

図２　CPUE の年変動率

2000 年以降の伊豆諸島海域におけるイセエビの水揚量は、68 トンで最大値となった 2002 年以降減少傾向で、最新の 2023 年では最大時の 1/8 程度まで減少している（図１）。

一方で、CPUE（いせえび刺し網漁業１操業あたりの水揚量）も 2001 年以降に減少し、2003 年以降は 11～21 kg/日・隻の中で増減を繰り返している（図１）。

本資源評価票の資源量指標値は CPUE とした。2023 年における資源の水準は、CPUE が最大値となった 2001 年の 29.6 kg/日・隻の 1/3 以上 2/3 未満である 11.4 kg/日・隻であるため「中位」とした（図 1）。

資源の動向は、直近５年間の CPUE から算出した年変動率が―5.05 であり、年間 5%以上の減少が見られたため「減少」とした（図 2）。

生態学的特性

○分布・回遊：茨城県以南の太平洋岸、九州沿岸に分布し、東京都においては伊豆諸島に生息する[1、2)]。

○年齢・成長：成長は雌よりも雄の方が速いとされ、三重県においては雌の体重が１～３齢でそれぞれ 70.1 g、158 g、237 g になるのに対し、雄ではで約 78.7 g、207 g、344 g になる[3)]。

○成熟・産卵：産卵期は５～８月であり、１月程度の抱卵期間を経た後に幼生として約 1 年間の浮遊生活を行い、着底後２年で成熟する[4、5)]。

○被捕食関係：貝類、甲殻類等を摂餌する[6)]

東京都におけるイセエビ漁

○漁業：伊豆諸島の各島において第一種共同漁業権の対象種であり、重要な磯根資源となっている。

○漁法：刺し網により漁獲される。

○管理：東京都漁業調整規則において採捕禁止期間（６～８月）や大きさの制限（全長※13 cm）が設定されている。また、第一種共同漁業権行使規則の中で、漁場管理委員会で口開け・口止め期間を決定し操業期間を制限する他、漁具・漁法の制限や体長制限、栽培区の設定等が行われている。

＊全長は目のつけ根から尾の末端まで

東京都

1）峯水亮．2000．イセエビ．武田正倫・奥野淳兒（監）．海の甲殻類．文一総合出版，東京，p 118.
2）関口秀夫．1988．イセエビ *Panulirus japonicus*(Von Siebold)の地理分布をめぐって．水産海洋研究会報，52（2）：160-168
3）山川卓．1977．複数体長組成データの解析によるイセエビの生長と齢別組成および加入の推定．水産海洋研究，61（1）：23-32
4）大島康雄．1976．イセエビ資源の培養に関する考え方．水産土木，12（2）：1-3
5）野中忠．1988．生態・成熟（イセエビ）平野礼次郎（編）．水産学シリーズ 71　エビ・カニ類の種苗生産，恒星社厚生閣，東京，pp. 28－38
6）小池隆・山崎博貴・内田誠．2003．イセエビの摂餌活動の周年変化．日本水産学会誌，69（4）：568-574